

第37回日本脊髄外科学会



# ランチョンセミナー1 (LS1)

Luncheon Seminar

日時

2022年6月16日(木) 12:10~13:10

会場

A会場 (2F 大ホール) 和歌山城ホール

座長

飛驒 一利 先生

札幌麻生脳神経外科病院

演者

菅原 卓 先生

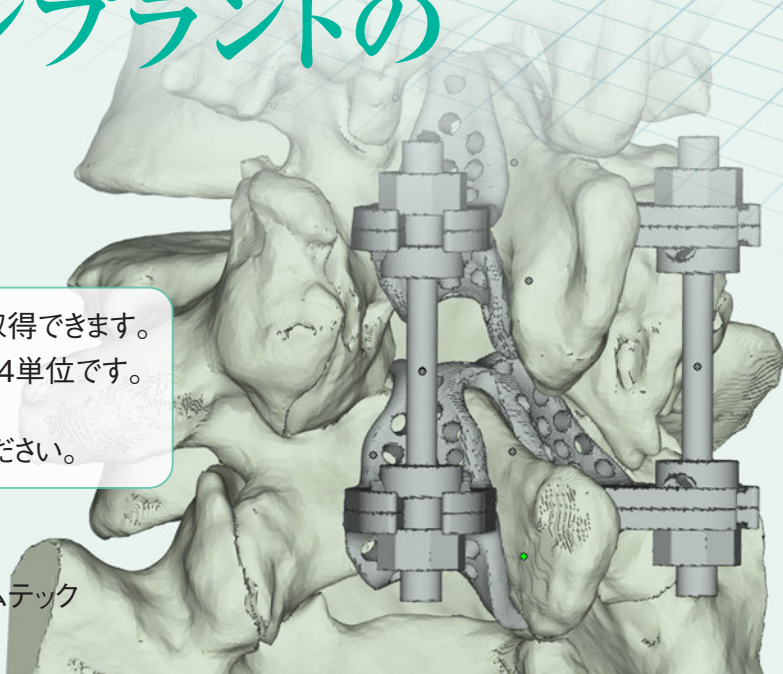
秋田県立循環器・脳脊髄センター 脊髄脊椎外科

## 日本発脊椎インプラントの 開発と現状

取得単位

- ・本セミナーは脳神経外科領域講習の1単位が取得できます。
- ・本会期中における領域講習の取得単位上限は4単位です。
- ・領域講習の単位取得方法の詳細については、プログラム・抄録集または学会HPにてご確認ください。

共催：第37回日本脊髄外科学会、株式会社アムテック



## ランチョンセミナー1 (LS1)

Luncheon Seminar

# 日本発脊椎インプラントの 開発と現状

秋田県立循環器・脳脊髄センター 脊髄脊椎外科 **菅原 卓** 先生

近年、脊椎外科医療は新規手術器具・インプラント・画像支援システムなどの導入と改良により大きな進歩を遂げ、新医療機器の使用によって手術成績が向上することが多くの臨床研究で示された。日本は高い技術力と厳密な品質管理能力を持ち、モノづくりを得意としているが、医療機器については欧米にシェアで圧倒的な差をつけられているのが現状である。国内の医療機器市場は約3兆円、流通している機器は多くが海外製品であり、実に1兆円近い輸入超過となっている。この状態が続けば、日本は医療のフロントラインから後退し、輸入製品を使用するだけの医療機器後進国となる可能性があり、国は状況を打開するために様々な施策を講じている。その中で日本医療研究開発機構 (AMED) が設置した「医療機器開発に関する検討委員会」は今後の医療機器開発において17の注目領域を設定した。このうち(1) コンパニオン診断・カスタムメイド治療の実現、(2) 既存の治療手段の改良・廉価化、(3) 新たな低侵襲治療の実現、の3領域が特に脊椎外科と関連が深いと考えられる。最近、国内で開発・実用化された脊椎外科関連医療機器のうち、上記(1)に相当するカスタムメイド機器として、脊椎後方固定用のプラスチック製ガイド「スクリューガイドテンプレート」、3D チタンプリンター製椎弓カバーを用いる固定システム「TM fixation システム」、(2)の例としてチタン製頸椎椎弓形成術用プレートシステム「脊椎バスケットプレートセット」、(3)は腰椎棘突起間スペーサー「Swiftシステム」、腰椎除圧後に使用する脊椎プレート「Wingプレートシステム」などを紹介し、日本における脊椎インプラント開発の現状を報告する。

